



蔵王山 安善寺 晋山結制

蔵王山安善寺

◆編集・発行人◆
近藤龍弘

〒940-0052
長岡市神田町1丁目4番10
TEL.0258-32-2811

◆スタッフ◆

小林国二・高橋潔・室賀清輝
高橋利春・屋代健・飯泉隆史
近藤マリ子・近藤真弘・近藤善信

後援・株式会社アサヒ
印刷(株)北越時報社

ご家族の皆さままでご覧ください

皆様、新年あけましておめでとうございます。新たな年が皆様方にとって素晴らしい一年になるようご祈念申し上げます。

昨年は安善寺にとつて特別な一年でございました。今号でも特集を組ませていただきましたが、十月五日、六日と

住職交代の退董式、晋山式、先代の三十三回忌を厳修させていただきました。

安善寺に於いては三十三年ぶりであり、私にとっても一世代

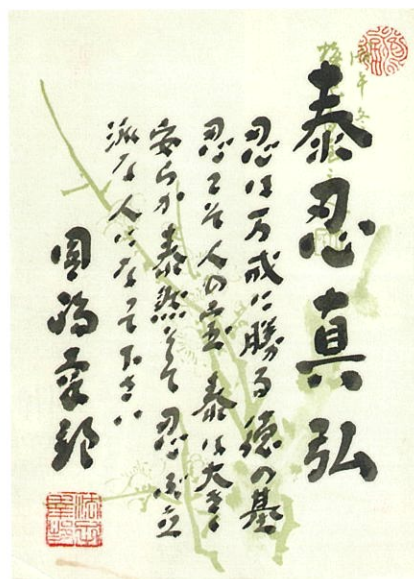
の大法要でございました。この大法要を厳修するにあたり、準備の段から総代、世話人、檀信徒皆様の多大なるご協力を賜ったことに改めて心より感謝申し上げます。

また、当日には大本山總持寺監院、新潟市宗現寺御住職乙川暎元老師、本寺普濟寺御住職金子重紀老師をはじめ県内外からの多くの御寺院様方に御随喜ご協力を賜り、多くの檀信徒の皆様からご参列や祝意を賜ったことに厚く御礼申し上げますとともに、この度多くの皆様から頂戴した御恩を胸に安善寺の住職として精一杯務めてまいります。

さて、我々僧侶には名前の前に二字の「法号(号)」というものがありません。安善寺の先代は「雲巖」であり東堂老師の法号は「翠巖」

安善寺 住職としての新たな一歩

泰忍真弘



巖」であります。曹洞宗では一般的に出家得度の際に授業師という得度の師匠に法号を付けていただきます。私も授業師である藤本幸邦老師に「泰忍」という法号を賜りました。

その際に一緒に言葉の意味合いを書いたものを頂きました。そこには「忍は万成に勝る徳の基、忍こそ人の宝、泰は大きく安らかな、泰然として忍ぶ立派な人になつて下さい」と書かれました。私が得度をしたのは平

成元年十月でありました。平成元年という年号が新たな年に得度をして僧侶としての一歩を歩みだしました、奇しくも令和元年という新たな年号で同じく十月に安善寺の住職としてまた新たな一歩を歩みだすことになりました。素晴らしい授業師より授かった立派な法号に恥じることはないよう、しっかりと努めてまいります。本年も宜しく申し上げます。

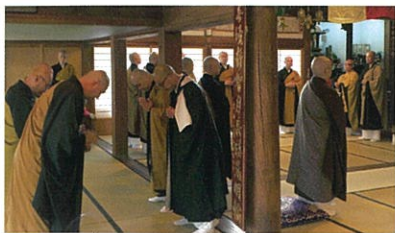
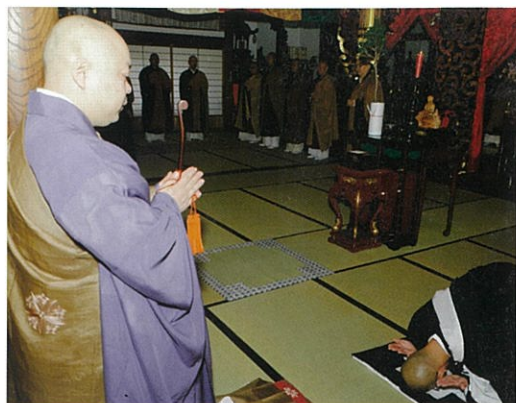
安善寺二十八世晋山式・二十七世退董式・ 二十六世三十三回忌歴任御遠忌無事に厳修いたしました

晋山式とは新たな任職が寺に晋すすむことであり、この度は晋山式と共に首座しよざを筆頭とした修行期間である結制期間を設けました。併せて「晋山結制」を修行することはそのお寺にとって一大事であり、多くの方々のご協力なくしては務めることが叶いません。曹洞宗古くからの伝統にのっとり二日間にわたって様々な法要と共に、任職の退く式である「退董式」と先代見龍大和尚の三十三回忌も厳修いたしました。今号では二日間の諸法要をご報告させていただきます。

二〇一九年
十月五日

「首座入寺式」

本来は坐禅堂で行う首座がお寺に正式に入るお式です。当日は本堂を坐禅堂に見立て、首座である市内妙喜寺の諸橋健太和尚が諸役の方丈様に決意の言葉を述べ、自身の位に就きました。



「土地堂念誦」

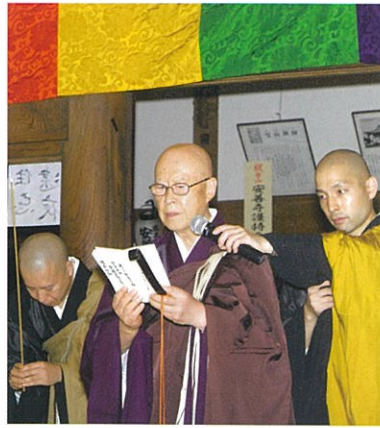
結制期間の安穩を願い土地神に祈念する法要であり新命真弘和尚が導師を勤めました。また、この法要でお唱えをする維那(いのこ)という大切なお役を、新命の修行同期である同安居(どうあんご)三条市東山寺の川上徹宗方丈様に努めていただきました。



「本則配役行茶」

この度の諸法要に御随喜、ご加担を賜る方丈様方に対してお願いのお式であり、明日首座法戦式で首座和尚が挙す「達磨廓然(だるまかくねん)」について西堂のお役である大本山總持寺監院、新潟市宗現寺御住職乙川暎元老師より提唱(祖録を講ずること)を賜りました。最後に皆様でお茶とお菓子を頂きます。





「見龍大和尚
三十三回忌速夜法要」
速夜(たいや)とは正当の法要の前晩に行う法要であり、安善寺の本寺である市内栖吉の普濟寺御住職金子重紀老師に大導師をお勤めいただきました。



「薬石(やくせき)」

薬石とは夕食のことです。五日の日に御随喜頂いた方丈様方と首座和尚の関係者、安善寺の総代・世話人、親戚の皆様でいただきました。根岸世話人進行のもと本寺様のご挨拶の後、乾杯を鈴木昭次郎総代、終わりの挨拶を日山世話人に頂戴いたしました。

二〇一九年
十月六日

「安下処法要」

六日の朝、新命は五人の侍者と共に、この度の安下処である総代小林政雄様邸に赴き、仏壇前で先祖供養の法要を勤め、朝食を頂いたのち晋山行列に向けて身支度を整えました。



「お稚児さん」

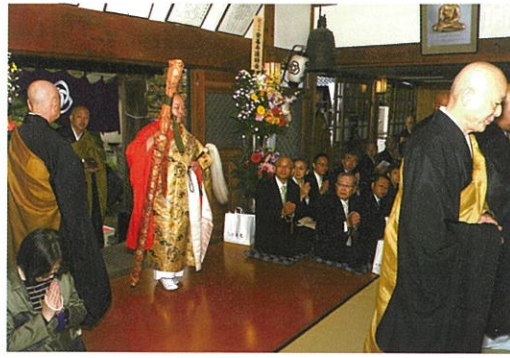
この度の晋山ではお稚児さんを募集して、お檀家さんや友人、町内のお子さんなど二十名が参加していただき、お隣の少彦名神社で身支度を整え、行列に華をそえていただきました。



「晋山行列」

安下処を出発した新命は御詠歌を唱える僧侶の先導で世話人さんの持つ提灯、五色幡、お稚児さんと共に安善寺へ向かいました。





「晋山式」
安善寺に到着し、門柱で法語を唱え、太鼓の鳴り響く中本堂に入りご本尊様をはじめ諸堂の仏さまの前でそれぞれ法語を唱え住職として正式に安善寺に入寺した旨ご報告をいたしました。



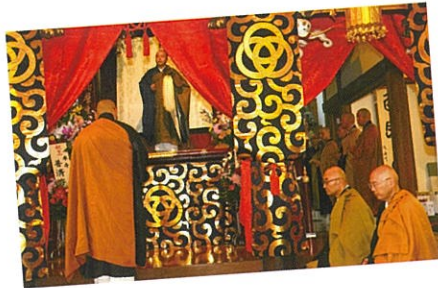
「辞令宣読・総代請拝」

宗務所長より安善寺の住職として任命する辞令を頂き、小林総代、太刀川総代が檀信徒の代表として新たな住職を迎えるお拝をされました。

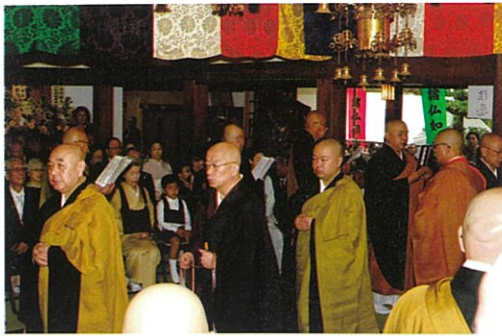


「結制上堂」

新命は本堂須弥壇上に登り、ご本尊様、歴任様、檀信徒の皆様、前任職龍弘方丈様に感謝の法語を述べ香を焚きました。その後集まった衆僧と力量を量る問答を行いました。そして、兩大本山の御專使、宗務所長、教区長、長生会会長、檀信徒総代太刀川善之助様から祝辞を頂戴いたしました。



「首座法戦式」
法の戦いと書く法戦式ですが、今回の結制で先頭に立ち修行を勤めている首座、諸橋健太和尚がまさに迫力ある大問答を繰り広げました。小学校三年生の真人くんも辨事という大役を立派に勤めました。



「先住三十三回忌正当法要」

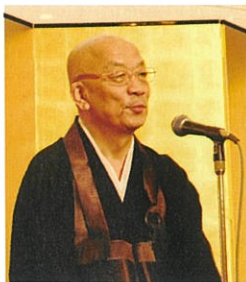
安善寺二十六世重興雲巖見龍大和尚の正当三十三回忌法要を大本山總持寺監院、新潟市宗現寺御住職乙川暎元老師大導師により、厳肅に厳修いたしました。法要後に乙川老師には有難いお言葉も賜りました。



「退董式」
三十三年間安善寺の住職を勤めた龍弘住職が退き東堂となるお式です。法要の侍者は真弘新命が、侍香は三勇の祥公和尚が務め、法要後には総代の小林政雄様から祝辞が述べられ、孫達からの花束贈呈も行われました。



「檀信徒総回向」
新命真弘和尚が導師を勤め、檀信徒各家の先祖供養の法要を厳修いたしました。法要の両班(りょうばん)という両脇の衆僧は真弘新命の修行同期の方々で今日の為に全国各地より御随喜に来ていただきました。



「祝齋」
ホテルニューオータニ長岡においての祝齋では市内興国寺家族の小西様に司会進行を頂き、乙川老師小林総代にご挨拶を賜り、本寺金子老師より乾杯の御発声を頂きました。途中に市内のワイズバトニングの技を披露していただきました。この中には昨年世界大会にも出場したお檀家の屋代様、安藤様のお嬢さんがおられ、世界レベルの演技をされ、祝齋の場を大いに盛り上げていただきました。最後に太刀川総代よりご挨拶をいただき終宴となりました。

この度の晋山結制では九十数名の御随喜頂いた寺院の皆様をはじめ、多大なるご寄付を賜った多くの檀信徒の皆様、準備の段から何度も会議を重ね、当日は裏方で受付をしていただいた世話人の皆様、お茶出し等をお手伝いいただいたK A K A笑の会の皆様、事前準備から当日も親身になってお手伝いいただいた業者の皆様、本当に多くの皆様方のお陰で盛大裡に円成を迎えることが出来ました。関わっていただいたすべての皆様へ感謝申し上げます。



【晋山式】歴史と格式、幸せを感じた一日でした

間野 隆

今日は、待ちにまった晋山式。

生憎昨夜からの雨が止む事はありませんでしたが、七時過ぎに家を出ました。安善寺の山門を潜り、受付に着いた頃には大勢の檀信徒さんが着席して、椅子席はもう満杯でした。私は本堂内の座布団席に座り、式典の始まりを待ちました。見るもの、聞くもの全てが初体験で、うらしま太郎の心境で進んでいく式典に胸おどらせながら拝見しました。

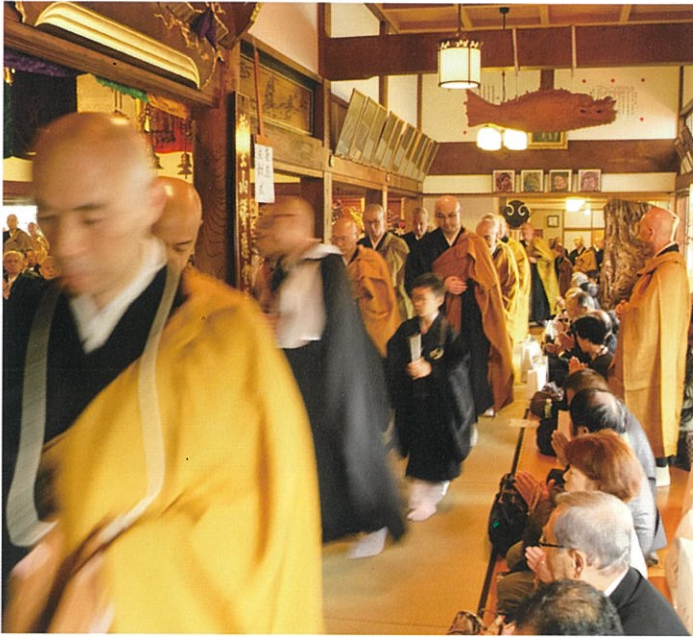
予定通り五盃三拝から始まり、新命真弘和尚と綺麗に着飾った稚児さん達が安善寺の門を潜ってきました。今回、私の心を動かし、そして参列しようと思った晋山式が始まる瞬間です。大勢の方丈様が忙しく

動き回る姿を見て、安善寺がいかにか歴史のある寺院なのかと思いらされました。

そしてついに私が一番見たかった儀式、結制上堂が始まりました。メディア・書物等で得た知識が現実のものとなり、目

の前に広がっています。すっかり興奮してどんなやりとりになるか耳を澄まして聞いていました。

私の席が本堂内の座布団席の端だったため、声が通らなかつた上、新命真弘和尚の姿がちょうど柱の影で見えづらかつた



ことが悔やまれます。

厳粛に行われた結制上堂は、新命真弘和尚との大問答。残念ながら相對する姿がみえず、脳内で補完して拝見していました。

新たに安善寺の住職となられた真弘和尚の堂々たる姿は、檀信徒に力強さと安心を与え、これからも真弘和尚を心の支えにして前に進みたいと思わせるものでした。

退董式では三十三年間安善寺の住職として檀信徒を守っていただいた、二十七世龍弘方丈様のお言葉を聞かせていただきました。いつも檀家にやさしく接し、親身になって話を聞き、常に檀家の事を思ってくださった龍弘方丈様に心から感謝し、これからは変わらぬご指導御願ひしたいと思っています。檀信徒各家に、新たに



住職となった真弘和尚による総回向が行われ、ここに新命真弘住職は大和尚となりました。

晋山式に実際に参列し蔵王山安善寺の歴史と格式を改めて感じられました。この格式ある寺院を菩提寺としている私は、

なんて幸せなのだろう。きつと死後の世界より極楽行きのチケットがいずれ届く。そんな気にすらさせられました。

私の人生最初で最後の儀式。晋山式に参列ができた、幸せを感じた一日でした。

合掌

三十三年間の住職を振り返って

東堂・翠巖龍弘

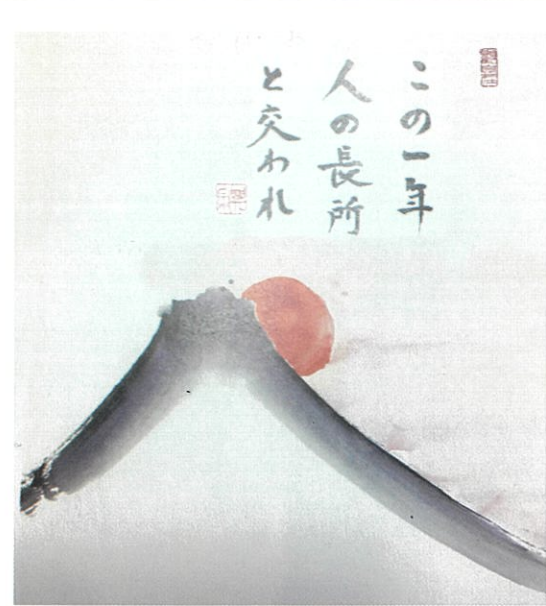
昨年十月の晋山式法要等では、御寺院、檀信徒、多くの関係ある方々のご協力、お力添えをいただき、お陰さまで無事勤めることができました。改めて感謝、御礼申し上げます。

私も数え七十四歳、まさに光陰矢の如しです。昭和六十一年十月に晋山式を厳修させていただき、浅学非才の私がなんとか



板橋興宗禅師様

三十三年間、住職を勤めさせていただきましたのも、多くの皆様方のお陰と



板橋興宗禅師様のカレンダー

感謝の念に堪えませぬ。安善寺廿六世、師匠の雲巖見龍和尚様の、戦後の厳しい時代にもかかわらず、かづくの教化活動等の業績を思うに、後悔先にたたず、徒に過ごした日々が多かつたかと深く反省させられます。

平成十年三月七日創刊の『季刊・藏王山安善寺』は、故安藤一夫様の「安善寺が檀信徒の皆様方から身近な存在になっていただけの手助けになるように、また仏教が大勢の人達に親しんでいただき、生

活に活かしてもらいたい」との願いから発刊され、一切の負担を担われ初代編集長を努められました。が、平成十四年六月に他界された後、後を継がれた株式会社アサヒ社長伊藤英興様のご厚意により二十二年間、八十八号まで続けさせていただきました。

住職が変わるのを機会に、今号が最後とさせていただきますことになり、ご

厚意によりカラー印刷にさせて戴きました。長いお願い申し上げます。



板橋興宗禅師様のカレンダー



「KAKA笑の会」トランペットが鳴り響く!

次回「KAKA笑の会」は、五月三十日(土)に「トランペット演奏会」を予定しています。詳細が決まりましたらご案内させていただきます。是非ご参加ください。どうぞお楽しみに!



板橋興宗禅師様

間誠に有り難うございました。紙面をかりて厚く御礼申し上げます。

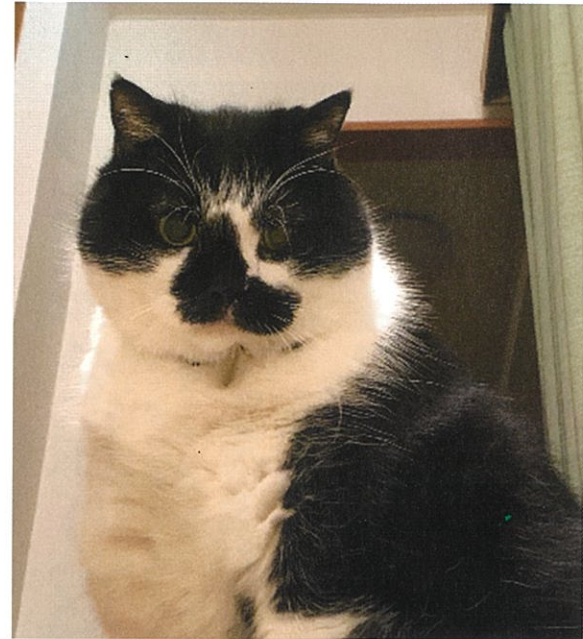
今後は、安善寺廿八世真弘和尚の元、八十九号へと続ける予定になっております。



みんな立派でしたよ!!

ボブの独り言

階下の本堂ではなにやら騒々しい。重い体でドスンドスンと降りていくとそこにはたくさんのお坊様とお檀家様。その中にお衣を纏った小さな子が座っている。真人君だ！いつものやんちゃさはどこに行っただのか、緊張した面持ちでいる。次の瞬間、「てんどうのがくおし ようじゅにいわく：」大きな声が本堂に響き渡ります。なにやら私も聞き覚えのある呪文のような言葉：毎晩真人君の布団の中で何度も何度も聞いたのはまさしくこれだったんだ！



すが久美さんは子供たちを叱るときには必ず関西弁になるのです。その凄味のある声と言ったら怖い何の：、今晚も出た、関西久美子！ そうなったら私は一目散に快適な真人君の布団から出ていくのです。

そんな怖い練習の成果もあり立派にお役を果たした真人君。お檀家様からたくさんお褒めの言葉をいただいた嬉しそう。そんな様子を羨ましそうに見ていた悠真君にも大役がありました。退董するじいじとそれを支えたばあばへのサプライズ花束贈呈。従妹の優花ちゃん

んと一緒に登場です。じいじとばあばも涙を浮かべながらもとても嬉しそう。

温かい雰囲気の中、お式は滞りなく終えていきます。あらあら大変。本堂の主役である新命真弘和尚のことを忘れていました。安善寺二十八世、須弥壇上に登り問答を行う姿はそれは立派でございました。私ももう十七歳。生きていく間に何十年に一度というお式に立ち会えたことは幸せなことでございます。

編集 雑感

令和二年の幕開けです。令和元年には皆様には大変お世話になりました。

安善寺の住職が交代し新しい安善寺の和尚様が誕生いたしました。世の中が変わるようにどの世界も変わって行きます。今後とも宜しくご指導御鞭撻の程お願い申し上げます。

若い和尚様はこれからの安善寺を盛り上げて戴けると思います。編集者一同出来る限りのご奉公をさせていただきます。

では、今までの和尚様をどのようにお呼びしたらよいのか！ 東堂様・老師様と呼び方はいろいろありますが、御老師と言うのが一番かと思えます。編集者もそろそろ引退の

お便り原稿用紙

季刊誌では、壇信徒・読者の皆さまと、ごいっしょに誌面をつくりながら、コミュニケーションを深めたいと思います。ハガキまたはお手紙、ファックスなどで、お気軽にお便りをお寄せください。お待ちしております。

原稿の例

- 思い出話／ご家族、ご先祖、お寺の思い出話など。
- 私に言わせて／家事や子育てのお話、身近な出来事など。
- 教えてください／仏事のしきたりや疑問（編集部や住職がお答えします）など。
- 嬉しい・楽しい／嬉しかったこと、楽しかったこと、悲しかったこと、怒ったこと。

時期に来ています。もっと若い方々から参加して繋いで戴かないと季刊誌も先がありません。今迄株式会社アサヒの伊藤社長様からご援助賜り続けて参りました。感謝申し上げます。今回を持ちまして安善寺内で独立して継続することに致しました。何せ老骨の編集者が多いので内容も変わり映えしないと思います。多くの寄稿がそれを救って下さっていました。誠に有難うございます。

若い方々も参加するようになっていますが、まだまだ人数が不足しております。募集に編集に参加できる方！報酬なし・会議後細やかではあります。豪華な食事飲食有です。夕方6時半より集合して会議を行います。吾と思の方は是非ともお申し出下さいませ。お試しに参加する方大歓迎。事前申し込みをお願いいたします。3月・5月・8月・11月の4回が編集員会です。ちよつと覗いてみませんか。また、今年も皆様の御寄稿をお願いいたします。ここがポイントです。合わせて写真なども大歓迎です。編集後記が勧誘になっちゃった、お許しを！

第八十九号、春号は令和二年三月十日(火)発刊予定です